

# 経営者自身ががんから得た体験を 誰でも、いつでも、どこでも働ける 職場づくりに活かす

株式会社 マックス

株式会社マックスは、1905年（明治38年）に小川石鹸製造所として創業。以来、社名がマックスに変わったのちも、石鹸づくりを中心とした事業を展開してきた。なかでも戦前から手掛けているレモン石鹸は、小学校の手洗い用として広く普及し、世代を超えて使われ続けてきたベストセラーだ。今では、薬用石鹸や無添加石鹸、スキンケア化粧品、入浴剤などさまざまな製品の企画から自社工場での製造、販売までを行っている。

近年は、人材の確保に困難な状況から、「休みたい時に休める、社員同士で助け合いができる、誰でも働き続けることができる」ための環境づくりに取り組んできたが、5代目社長の**大野範子氏**自身にがんが発覚する。大野社長はこれをきっかけに治療と仕事の両立に取り組む重要性を認識するようになったという。

## 1. 社長就任の半年後に 発覚したがん

創業者の曾孫である大野社長に子宮頸がんが発覚したのは、2009年10月。社長就任からわずか半年後のことだった。この時は子宮全摘手術を受け、一時は治ったかに思われたが、4カ月後の2010年2月、摘出跡の広範囲でがんが再発していることが判明。抗がん剤と放射線治療が始まった。さらにその後2年間を含めて計4回の転移があり、その度に摘出手術、抗がん剤治療や放射線治療を実施している。

大野社長は医師に治療を任せただけでなく、最初の転移が見つかった時から、治療に加えて、食事を中心とした体質改善もスタート。がんになりやすい体質を

改善すべく家族とも一緒に闘病することで治療へのモチベーションが上がったという。こうして、2013年9月に抗がん剤治療が終了。その後現在に至るまで再発はしていないという。

この間、大野社長は手術や放射線治療、抗がん剤治療などいくつもの治療を経験しながら仕事への復帰を目指すことになるが、治療方法や期間によって、続けられる仕事の時間や量、タイミングが大きく異なる。それらを調整しながら働き続けるには、家族はもちろん、職場のメンバーの理解と支えが不可欠だった。この時、周囲の支えの大切さやその効果の大きさを実感したことが、その後の企業経営、人材活用の考え方に大きな影響を与える。

## 2. 経営理念に根ざして 職場環境を改善

しかし、もともと環境づくりの取組は「治療と仕事の両立」だけを目指したものではなかった。

「よく、セミナーなどでお話するのですが、『治療と仕事の両立をさせます！しましよ！』というとてもハードルが上がってしまいます。それが実際できるようになるにはどうしたらいいのか、というもっと根本的なところを紐解いていくと、休みたいときに休んだり、社員とその家族同士が助け合いのできる風土づくりであったり、みんなで誰でも働き続けることができる職場づくりを追求していけば、自然と病気の治療と仕事の両立もできるようになる、ということではないかな、と思っています。会社の中でも外でも『マックスは治療



大野範子代表取締役社長

と仕事の両立支援をやっていますよ!』と声高に  
いってはいません」と大  
野社長。

あくまで経営理念の  
一つである「社員の精神  
的（働き甲斐）、物理的  
幸せを追求し、家族の  
幸せを追求する」という  
理念から発した取組な  
のだ。

### 3. 多能工化で 働き方の自由度を上げる

同社が力を入れている取組の一つに「多能工化」があ  
る。

もともと石鹼の製造は重労働であり、知識や技術の  
伝承が必要な男性中心の仕事だった。しかし、近年は  
若年労働者の製造業離れにより、フルタイムで働ける  
男性社員の確保が困難になった。これを解決するため、  
性別や知識・経験の有無に関係なく、誰でも働けるよう、  
機械や新技術を積極的に活用し、製造作業の軽量化に  
よる人力作業からの脱却、コンピュータ導入による工  
程のシステム化などを推進してきた。

同社には石鹼工場、液体工場、粉体工場、加工場な  
どの工場があり、それぞれに専門性のある製造ライン  
を保有しているが、これらを軽量化・システム化する  
ことにより、現在では異なる製造ラインの従業員がそ  
れぞれの専門性を共有することができ、効率的な運用  
が可能になった。

「会社にはよく『この人でなくてはならない』という存  
在がいます。しかし他の人でなければダメだというこ  
とは、その人は休めないということです。現代はそん  
な特別な存在になるよりは、もっと自分の時間を大切  
にしたい、フレキシブルに働きたいという人のほうが  
圧倒的に増えてきています。当社はそうした状況に対  
応して職場づくりをしてきました」と広報担当の品川雅  
司さんは語る。

多能工化することで配置転換が容易となり、治療と

仕事の両立に結びついた事例もある。

「現在、がん治療中の従業員が一人おりますが、その  
方に会社側からいろいろとヒアリングし、どのような  
就労形態がいいのか話し合いました。その結果、長ら  
く工場の生産現場に携わっていた方ですが、品質管理  
の仕事に異動していただきました。現在は回復基調に  
ありますので、本人からは自分の強みである生産現場  
に携わりたいとの希望があり、二つの仕事を半々の割  
合でお願いしています」と大野社長。

この方の頑張りにより、所属するグループの生産性  
が向上したという結果も出ているという。治療と仕事  
の両立における取組の成功例といえよう。

### 4. 人生100年時代を見据えた 企業づくり

「私自身が大きな病気をしたのちに職場復帰して強く  
実感したことは、『働ける喜び』でした。人にとって元気  
に働き続けるということがいかに重要かということに  
気付いたのです。日本は近い将来人生100年時代を迎え  
ることは確実だと考えています。その時、70歳、80歳  
まで元気に働きたいという方が増えてくることもまた  
確実です。そういった方たちのために、高齢になっても、  
または病氣療養などを経て体力的に衰えてきても、そ  
の方の存在が十分に役立つ、社会と関わっていると実  
感できるようなフィールドとしての会社をつくってお  
きたいと考えています」と力強く語る大野社長。

企業にとって仕組みや設備を整備することやインフ  
ラを強化することは、費用面でも人材面でもけっして  
容易なことでない。しかし、健康寿命をまっとうする  
には働き続けることが必要不可欠との大野社長の思い  
は強い。それが可能となる企業づくりに向けて、同社  
は今後も前進を続けるに違いない。

#### 会社概要

株式会社 マックス

事業内容：一般化粧石鹼・特殊高級化粧石鹼・贈答用化粧石鹼・  
薬用石鹼（医薬部外品）などの製造・企画・販売

設 立：1905年

従 業 員：90人（2019年9月）

所 在 地：大阪府八尾市